

生物の学名や和名を正しく鑑定することを「同定（どうてい）」といいます。私は昆虫の同定は苦手ですが、キノコ（真菌類の大型子実体）の同定は比較的得意で、種名までは難しくても、属名や科名ぐらいまではわかることが多いです。その菌体の色、形態的特徴（傘の形状、茎への付き方、茎が中空か中実か、ひだの密度など）、臭い、粘り気などで種（しゅ）を絞り込んでいくのです。それでも決定打がない場合は、顕微鏡で胞子を観察します。胞子の形状や、特殊な試薬への反応（アミロイド反応）が最後の決め手になることが多いです。灯台は生物ではありませんので、「同定」というのはおかしいのですが、灯台にも生物と同じような特徴があるので、私は「同定」と呼んでいます。

夕暮れ時～夜間に、灯台を遠くから見た時、その灯台がどこのものか（〇〇灯台っか）を同定するには、観察地からの「方位」と「灯質」「灯式」が決め手になります。「灯質」とは、主に灯火の色のことです。通常は白色光ですが、「防波堤灯台」には緑や赤も存在します。「灯式」は光り方の特徴で、「〇秒に一回単閃光」とか「5秒ごとに群閃光」といった表現をします。中には「不動光（光りっぱなし）」や「モールス符号 T」といった特殊な灯式の灯台も存在します。これらの情報は、海上保安庁が発行している「党代表」・・・じゃない「灯台表」という冊子にまとめられています。

浜金谷港から三浦半島側を見ると、半島の先端付近に2つの灯台が見えました。右側の特に明るく光る灯台は「剣崎灯台（つるぎさきとうだい）」です。灯質・灯式は「複合群閃白緑互光」という複雑なもので、「毎30秒に白2閃光と緑1閃光」となっています。「白2閃光」は暗くてよくわかりませんが、「緑1閃光」ははっきり映っています。一方、左の暗いほうの光は、城ヶ島東端の「安房崎灯台（あわさきとうだい）」です。こちらは「単閃白光」で、「毎4秒に1閃光」です。実際に動画でも4秒に一回光っています。安房崎灯台は、令和2年改築と新しいだけに、光源はLEDだそうです。夜の海路を航行する船舶の船長や航海士は、こうした灯台の特徴を暗記し、正確に同定できる能力が要求されるのです。

（2025年2月下旬／千葉県浜金谷港）

